

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

小児の事故とその防止に関する研究

平成10年度

目 次

I 総括研究報告書	田中哲郎	254
II 分担研究報告書		
1. 小児の事故とその防止に関する総合的研究		
1) 小児事故の全国調査の詳細分析に関する研究結果の概要	田中哲郎, 小林正子	257
2) 健診用事故防止プログラムの作成	田中哲郎, 石井博子	267
3) 保健所における小児の事故防止事業に関する実態調査	田中哲郎, 若尾 勇, 内山有子, 岡 智康	281
4) インターネットを利用した子どもの事故症例の収集と応急手当の啓発	田中哲郎, 小林正子, 向井田紀子, 池見好昭, 伊藤英幸	289
2. 事故防止啓発方法に関する研究	衛藤 隆, 山中龍宏, 斉藤麗子	292
3. 乳幼児小型乾電池誤飲事故による傷害および合併症の治療に関する研究	浅井 聡, 吉川琢磨	296

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
総括研究報告書

小児の事故とその防止に関する研究（10120802）

主任研究者 田中哲郎（国立公衆衛生院母子保健学部）

研究要旨：高齢社会を迎えた一方で少子化が進むわが国にとって、生まれた子どもを安全に健やかに育むことは社会的義務であるとの認識から、具体的な小児事故防止の方法を確立するため、3年計画で取り組みを開始した。今年度は、収集された1万5千の事故症例を年齢別、場所別に分析して事故の実態を明らかにし、それを基に事故防止マニュアルを作成した。また、全国保健所における小児事故防止事業の実態も調査した。同時に、インターネットによる事故や応急手当の情報提供と事故例の収集を開始すべく準備を行った。さらに、諸外国における事故防止対策の現状を参考にして地域における事故防止啓発活動のあり方も検討した。これらと並行して、誤飲事故が増加している小型乾電池について、とくに起電力の強い電池が食道狭窄部に停留した場合の病態生理や合併症などについて動物実験を行い、電池の陰極側からのアルカリ産生が傷害および合併症の原因であることを明らかにした。これらの情報を迅速に提供する事故防止センターのような中心的機構の必要性も検討された。

分担研究者

衛藤 隆

東京大学大学院教育学研究科・教授

浅井 聡

日本大学医学部薬理学教室・講師

A. 研究目的

少子化対策に適合する母子保健対策のひとつとして、小児の事故防止に関する具体的方法を開発し、広く啓発を行うことで、子どもの安全に関する社会の認識を高め、先進諸国に比べて高率であるわが国の小児の不慮の事故による死亡率を低下させることを目的とする。また、効果的な事故情報の提供と収集についての方法と中心となるべき機構の必要性について検討する。

B. 研究方法

田中班においては、昨年度収集された1万5千の事故症例の詳細な分析を行い、事故防止マニュアルを作成する。また、全国保健所における小児事故防止事業の実態を把握するため質問紙調査を行い、次年度の事故防止対策実行に向けて情報を得る。同時に、インターネットによる事故や応急手当の情報提供と事故例収集のため、ホームページを開くことについて、他研究所などを参考に準備を行う。この他、主任研究者として研究の総括を行い、わが国におけるより効果的な事故情報の提供と収集について検討する。

衛藤班においては、諸外国における事故防止啓発普及の現状を文献、既存資料、インターネットなどを利用して調査し、それらを参考に、地域における小児事故防止啓

発活動のあり方を検討する。

浅井班においては、最近、誤飲事故が増加している小型乾電池について、とくに起電力の強い電池が食道狭窄部に停留した場合の病態生理や合併症などについて、動物実験を行い明らかにする。

C. 研究結果

1. 事故症例分析結果に基づく事故防止マニュアル（安全チェックリスト・パンフレット）の作成

14,612の事故症例を、年齢別、場所別に分析した。

年齢別では、従来の研究結果通り、発育段階によって起こり得る事故に特徴があることが明らかになった。さらに場所別に分類すると、家庭内では台所、浴室、階段、玄関、居間・子ども部屋、ベランダで、家庭外では公園において事故が多発していることが明らかになった。

そこで、これらの結果に基づいて、事故防止のための「安全チェックリスト」を作成した。年齢は、健診月齢に合わせた1カ月健診用、3～4カ月健診用、6カ月健診用、9カ月健診用、1歳健診用、1歳6カ月健診用、3歳健診用の7つに分類した。また、場所別の安全チェックリストについても、分析結果に基づき上記の家庭内・家庭外併せて7箇所について作成した。

さらに、事故防止の効果を高めるため、その月齢や年齢に多く発生する事故について指導する内容のパンフレットを作成し、安全チェックリストと併用することにした。

2. 保健所における小児の事故防止事業に関する実態調査

小児事故防止の教育および啓発活動を全国展開していく上で、各地域における活動拠点として保健所の可能性について検討した。主な調査内容は、保健所における小児事故防止事業の①現状、②今後の展望、③実施の必要条件、の3点である。調査は、

全国の支所を除く660箇所の保健所に調査用紙を配布、496箇所から回答を得た。これより、①小児事故防止事業は、都道府県部で4割弱、政令指定都市部では8割を越える保健所で、主に乳幼児健診時に指導という形で実施されている、②今後の事業を計画している保健所は少数であったが、約6割の保健所が小児事故防止事業の必要性については認めている、③必要条件としては、指導マニュアルや職員の研修を挙げる保健所が多い、などのことが明らかになった。また「小児事故防止センター」等の支援機関の必要性に関しても、全体の7割以上の保健所が必要であると答え、事故情報の提供、指導者の派遣、指導媒体の提供等を期待していた。

3. インターネットを利用した子どもの事故症例の収集と応急手当の啓発

今年度は基本的構想を立て、次年度早々にホームページを開設する段階まで到達した。概念としては、ホームページに子どもの事故に関する情報を掲載し、応急手当の方法を紹介する。さらに、子どもの事故例をアンケート形式で収集する。この結果は定期的にまとめて掲載するなどのことを考えている。

4. 事故防止啓発方法に関する研究

事故防止対策に早期より取り組んでいるスウェーデン等の国においては、事故のサーベイランスを行うと共に、各種事故に対する防止のための介入を組織的に実施し、それらの中に啓発活動が位置づけられていた。組織的、計画的な取り組みにより介入の評価も可能となっていた。

わが国の市区町村において実施されている母子保健事業の中で、小児事故防止のための啓発がどのように位置づけ可能であるかを東京都北区において検討した。母子健康手帳、両親（母親）学級、新生児訪問、乳幼児健康診査、育児教室等数

多くの活用場面があること、このほか児童館、地域の集まり、健康まつり等、関連する事業等の活用も可能であることが明らかにされた。

5. 乳幼児小型乾電池誤飲事故による傷害および合併症の治療に関する研究

電池の誤飲による食道粘膜障害は、持続的に流れる電流により二次的に陽極と陰極に各々別の化学反応が起こり、それぞれに産生された酸とアルカリに起因するものであることが判明した。とくにアルカリ側が危険であり、合併症の主な原因であることが明らかになり、電池による食道異物除去後の経過観察の重要性と初期治療の必要性が示唆された。

D. 考察

小児の事故防止に関する効果的対策を講ずるため、約1万5千の事故症例の分析を基に安全チェックリストと具体的な指導のためのパンフレットを作成し、健診時を利用して活用する準備を行ったが、チェックリストは米國小児科学会でも採用されており、健康診査の受診率の高いわが国において、この機会に子どもの事故防止の指導を行うことは良い方法であると思われる。また、保健所においてもこのような事故防止マニュアルを望む声が多かった。場所別のチェックリストはわが国でも初めての試みであるが、実際の事故例から検討されたものであるため、実用価値は高いと考えられる。さらに、インターネットによる事故情報の提供および情報の収集は、効率的な活用が期待される。

また、地域における小児事故防止の啓発のためには、先進諸国における事故防止の教育プログラムやシステム・アプローチが参考になると思われる。各種事業、行事の有機的関連を見通して、計画的および組織的に健康政策としての小児事故防止

対策を位置づけていくことが課題である。

小型乾電池誤飲事故に関しては、アルカリ側が危険であることが明らかになったことより、保護者や医師等に改めて注意を促す必要があると思われる。また今後は、アルカリ残留による進行性の合併症の病態解析、その早期予防および治療法の確立が肝要である。

これらの小児事故に関する情報を正確に迅速に伝えるためには、アメリカCDC内の国立事故防止センターのような中心的役割を果たす機関が必要になることが見込まれるが、各保健所調査の結果からもこのような機関の設立を期待する回答が多く寄せられ、今後も検討を要すると思われた。

E. 結論

小児の事故防止に関する効果的対策を講ずるため、事故防止マニュアルとして安全チェックリスト、パンフレット等を実際の事故症例の分析に基づいて作成し、次年度より全国保健所の健診時や、医療機関および保育園等に協力を求めて活用することとなった。また、インターネットを利用した事故情報の提供と収集を行う準備を整えた。さらに、先進諸国の事故防止教育プログラムやその方法を参考にして、地域における啓発方法も検討された。一方で、小型乾電池誤飲事故の病態生理と合併症について実験を行い、食道に停留した際にはアルカリ側が危険であることが判明したことから、電池による食道異物除去後の経過観察の重要性と初期治療の必要性が示唆された。

また、小児事故の防止に向けて中心となるべき機関の設立が必要であるとの要望が高いことも判明したため、継続して検討することとなった。

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

小児の事故とその防止に関する研究

小児事故の全国調査の詳細分析に関する研究結果の概要

主任研究者 田中 哲郎 国立公衆衛生院母子保健学部
研究協力者 小林 正子 同上

研究要旨：乳幼児の事故の実態を明らかにするため、平成9年11月から3カ月間、全国の病院輪番制に参加している病院および救命救急センターにおいて事故調査を実施し、14,612例を得たので、それらにつき詳細に分析を行った。

事故が一番多く発生していた年齢は、1歳、2歳、0歳、3歳、4歳の順であった。

0歳で多い事故は異物誤飲と転落事故で、1歳では、転倒、転落、衝突、熱傷であった。3歳以上では誤飲が減少し、交通事故が多くなっていた。

入院率の高い事故は溺水が47%、誤飲が10%、交通事故が7%などであった。

重症度と発生場所の関係についてみると、浴室、ベランダでの事故が多かった。

後遺症のみられる事故は台所での熱傷、浴室での溺水事故に多くみられていた。

これらの検討結果よりわが国における乳幼児の事故の実態を明らかにすることができ、健康診査時に使用可能な安全チェックリスト、場所別チェックリスト、保育園を基点とした事故防止プログラムを作成することができるようになった。

A. 研究目的

わが国においては乳幼児事故について全国調査が行われたことがなく、その実態は明かでなかった。そこで、平成9年11月から3カ月間、全国の病院群輪番制に参加している病院および救命救急センターの3,070施設に対し、未就学児の事故について調査を行い、14,612例の事故症例を得ることができた。

この調査の単純集計結果については、すでに平成9年度厚生省心身障害研究「乳幼児死亡の防止に関する研究」報告書に『わが国における乳幼児事故の実態調査』として報告した。

今回は、これらの症例について年齢別、事故内容、重症度、場所別について詳細に検討し、わが国における乳幼児事故の実態をさらに詳しく分析し、健診時に使用する安全チェックリスト、場所別チェ

ックリストおよび保育園を基点とした事故防止プログラムの作成のための資料とすることを目的に研究を行った。

B 方法

調査は病院群輪番制に参加している病院および救命救急センターを受診した事故症例に対して調査用紙に記入を依頼し、月毎に調査用紙の回収を行った。

調査対象は6歳以下の未就学児とし、期間は平成9年11月1日より3カ月間とした。

C 結果

1. 年齢別にみた事故

①年齢別事故

今回の14,612例のついて、年齢的に見ると、0歳が2,669件、1歳が3,440件、2歳が2,778件、3歳が2,138件、4歳が1,612件、5歳が1,326件、6歳が604件であった。ただし、6歳は就学前とし

たため一部のみであることにより、年齢別について発生件数をみる際には除くことが適切と考えられた。

6歳を除いた有効回答 14,008 件に対する割合をみると、0歳が 19.1%、1歳が 24.6%、2歳が 19.8%、3歳が 15.6%、4歳が 11.5%、5歳が 9.5%であった。この結果、事故が一番多く発生する年齢は1歳、2歳、0歳、3歳、4歳、5歳の順であった。また、年齢が大きくなるにしたがい事故全体に占める男の割合が高くなっていった(表 1)。

②事故内容

事故内容と年齢の関係をみると、0歳では異物誤飲が 579 件、転落が 480 件と多く、1歳では転倒が 917 件、転落が 719 件、衝突が 502 件、熱傷が 390 件と多くみられていた。3歳以上では誤飲は減少し、転倒、衝突、転落が多くなり、特に交通事故が多くなった(表 2)。

2. 事故内容からみた事故

事故について窒息、溺水、誤飲、熱傷、転落、衝突、はさむ事故、交通事故の 8 つに分けて事故内容別に検討を行った。それらの主な特徴については表 3 にまとめた。

①発生件数

発生件数では転倒が 3,933 件(36.9%)、転落が 2,666 件(18.2%)、衝突が 2,251 件(15.4%)、熱傷が 1,232 件(8.4%)、誤飲が 1,187 件(5.3%)、はさむ事故が 781 件(5.3%)、交通事故が 758 件(5.2%)などであった。

②最多発生年齢

事故の内容別にみた各事故の最多年齢は、0歳が窒息、誤飲、1歳が溺水、熱傷、転落、転倒、衝突、はさむ事故で、交通事故は2歳代であった。

男が女に比べ比率の高い事故は、衝突が 63.8%、転倒が 62.6%、溺水が 61.7%、交通事故が 58.5%、はさむ事故が 58.5%などとなっていた。

③搬送方法

救急車による搬送が多い事故は溺水が 79.5%、窒息が 52.9%、交通事故が 38.5%であった。

④入院率

入院した患者数の多い事故は転落 114 件、誤飲 112 件、転倒 76 件、交通事故 69 件などであった。

入院の率が高い事故は溺水が 46.8%、誤飲が 10.0%、交通事故が 7.0%であった。

平均入院日数が長いのは、熱傷 14.3 日、交通事故 13.0 日、衝突 9.5 日、はさむ事故が 8.3 日であった。

⑤重症患者

重症患者数が多かったのは、転落 28 名、交通事故 20 名、熱傷 13 名、転倒 12 名などであった。

割合が高かったのは、窒息 13.2%、溺水 12.8%であった。

⑥死亡者

死亡者は溺水が 14 名、交通事故が 9 名、窒息が 6 名などであった。

⑦後遺症

後遺症は熱傷が 120 名、転倒が 69 名、転落が 59 名、衝突が 50 名などで、率が高いのは窒息、溺水の 18.1%と、熱傷の 11.1%であった。

3. 場所別にみた事故

①年齢別、場所別の事故発生件数

場所別にみても子ども部屋を除いて 1 歳代の割合が多かったのは台所が 33.0%、浴室が 28.4%、階段が 29.4%、居間が 28.3%で、1 歳代の事故に対する対応が必要であることが明かになった(表 4)。

4 歳代に入ると事故の件数は明かに減少しており、0 ~ 3 歳代の事故の対策が重要である。

②発生時刻

事故の発生場所別により発生時刻に特徴がみられた(表 5)。

台所での事故は、食事の準備の 12 時

～2時前の間と午後6～8時前およびかたづけ時間の午後8時～10時前の間に多くみられていた。

浴室での事故は入浴時間の午後8時～10時前の間に多くみられていた。

階段での事故は子どもの活動時間である午前10時から午後10時頃の間が多かった。

玄関は外出が多い午前10時から午後6時頃に発生していた。

居間も午前10時から午後10時頃の間によくみられていた。

子ども部屋は午後4時頃から10時頃に多く発生していた。

ベランダは午前8時頃より午後6時頃までに多く発生していた。

③場所別の重症度、入院、後遺症の有無
発生場所別に重症度をみると、重症度の高いのは浴室、ベランダでの事故が多くみられていた。

入院割合についても同様の結果であった。

後遺症がみられた事故は台所、浴室での事故に多くみられており、台所では熱傷、浴室では溺水事故であった。この点からもこれらの事故について十分な対応が必要とされた(表6)。

④事故内容

台所は熱傷が最も多く、また、誤飲も多くみられていた。

浴室は滑ることによる転倒、沸かし過ぎによる熱傷、溺水事故が多かった。

階段は転落が26%と最も多くみられていた。

玄関では転倒が45%、はさむ事故が25%みられた。

ベランダでは転落が40%近くみられていた(表7)。

4. 重症度よりみた事故

①死亡事故

死亡事故は14612件中の33件で全体の割合は0.2%であった。

年齢分布は0歳が5件(15.2%)、1歳が10件(30.3%)、2歳が4件(12.1%)、3歳が3件(9.1%)、4歳が3件(9.1%)、5歳が5件(15.2%)、6歳が3件(9.1%)であった。

事故内容は溺水が14件(42.4%)と最も多く、次いで交通事故が9件(27.3%)、窒息が6件(18.2%)、転落が1件(3.0%)などであった。

溺水の原因は浴槽が4件、川・海が4件、池・湖が2件などであった(表8)。

交通事故の原因は自動車同乗中が4件、歩行者が2件、自転車が1件などであった。

窒息事故は布団・枕などが3件、吐乳が2件などである。

②重症事故は事故14,612件中98件で、全体の0.7%であった。

年齢分布は0歳が27件(27.6%)、1歳が21件(21.4%)、2歳が13件(13.3%)、3歳が12件(12.2%)、4歳が9件(9.2%)、5歳が10件(10.2%)、6歳が6件(6.1%)であった。

事故内容は転落が28件(28.6%)と最も多く、次いで交通事故が20件(20.4%)、熱傷が13件(13.3%)、転倒が12件(12.2%)、溺水が6件(6.1%)、窒息が5件(5.1%)であった(表9)。

転落はベビーベッドが2件、階段が1件、ベランダが2件、ブランコ・滑り台が2件などであった。交通事故は自動車同乗中が4件、歩行者が8件、自転車が1件などであった。

重症度別の氷山図を作成したところ、おおむね死亡1：重症3：中等症40：軽症400であった(図1)。

③入院を要した事故

入院を要した事故は525件で、全事故に占める割合は3.6%であった。

年齢分布は0歳が117件(22.3%)、1歳が115件(21.9%)、2歳が92件(17.5%)、3歳が61件(11.6%)、4歳が60件(11.4%)、5歳が53件(10.1%)であった。

事故内容についてみると、転落が 114 件(22.6%)、誤飲が 112 件(22.2%)、転倒が 76 件(15.1%)、交通事故が 69 件(13.7%)、熱傷が 56 件(11.1%)、衝突が 32 件(6.3%)、溺水が 22 件(4.4%)、はさむ事故が 17 件(3.4%)、窒息が 9 件(12.8%)であった。

転落事故は階段が 17 件、椅子が 12 件、ブランコ・滑り台が 8 件、ベランダが 3 件、ベビーベッドが 2 件などであった。

誤飲は薬品が 35 件、タバコが 26 件、ボタンなどの小物が 2 件、化粧品が 3 件、洗剤が 2 件などである。

転倒はつまづいてが 20 件、滑ってが 14 件などであった。

処置別の関係は死亡 1：入院 16：要通院 200：即日治療完了 130：治療不要 80 であった(図 2)。

④後遺症のみられた事故

事故発生時に後遺症の予想される症例は 399 件で事故全体の 14612 件中の 2.7% であった。

年齢分布は 0 歳が 73 件(18.3%)、1 歳が 123 件(30.8%)、2 歳が 53 件(13.3%)、3 歳が 62 件(15.5%)、4 歳が 39 件(9.8%)、5 歳が 26 件(6.5%)であった。

事故内容は熱傷が 120 件(31.6%)、転倒が 69 件(18.2%)、転落が 59 件(15.5%)、衝突が 50 件(13.2%)、誤飲が 23 件(6.1%)、はさむ事故が 22 件(5.8%)、溺水が 6 件(1.6%)、窒息が 5 件(1.3%)であった(表 10)。

主な熱傷の原因は食卓上の湯が 33 件、ポット 23 件、ストーブが 21 件、電気器具が 7 件、炊飯器が 4 件、タバコが 1 件などであった。

はさむ事故は家のドアが 7 件、車のドアが 2 件などであった。

転倒事故はつまづいてが 32 件、走っていてが 11 件、滑ってが 10 件などであった。

D. 考察

わが国の地域における事故調査は行わ

れているものの全国規模の調査は初めてであり、子どもの事故の実態が明らかにされた。

事故多発年齢は 1 歳で、我々の以前の調査と一致していた。また、年齢が大きくなるに従って、事故数が減少するのも同じであった。しかし、今回の調査では事故の発生頻度については明らかにできなかったが、それ以外の医療機関を受診した事故の実態については明らかにできたと考えられる。

これらのデータによりわが国の事故対策が科学的に行えるようになった。したがって、これらの資料を利用し、健診用の安全チェックリスト、場所別の安全チェックリストをより科学的に作成することが可能になった。

E. 結論

これらの分析の結果、より科学的な年齢別、場所別の安全チェックリストを作成できるようになり、より効果的な事故防止指導を行うことができるようになった。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1)田中哲郎. 子どもの事故防止のための安全指導. 小児科臨床. 51 巻 2 号: 289-297. 平成 10 年 2 月.
- 2)石井博子、田中哲郎、杉山太幹、岡智康、小林麻衣子. わが国の事故死亡率の国際比較. 保健の科学 40 巻 794-799. 平成 10 年 10 月.
- 3)田中哲郎. 子どもの不慮の事故. やまなし小児保健第 15 P4-9. 平成 10 年 3 月.
- 4)田中哲郎. 小児の事故予防. 公衆衛生 62 巻 4 号: 225-259. 平成 10 年 4 月.
- 5)田中哲郎. わが国の乳幼児事故. 公衆衛生研究 47(3):218-225. 平成 10 年 9 月.
- 6)田中哲郎、小林正子. 子どもの事故防止. 公衆衛生情報 28(10):32-33. 平成 10 年 10 月.
- 7)田中哲郎、向井田紀子、岡 智康、小

林麻衣子. わが国における小児事故. 保健の科学 40 巻:764-769. 平成 10 年 10 月.

2. 学会発表

1)田中哲郎. 特別講演 子どもの事故と防止. 第 24 回日本児童安全学会(東京). 平成 10 年 2 月.

2)田中哲郎. シンポジウム学校事故と養護教諭. 平成 10 年度全国養護教諭研究大会.(大阪). 平成 10 年 7 月.

3)T.Tanaka, Y.Uchiyama, A.Tanaka. Regional Differences in Childhood Accidents in Japan-Comparison Between Large Cities and Other Districts. 4th World Injury prevention and control conference (Amsterdam). 1998.5

4)H.Ishi, T.Tanaka, N.Kato, Y.Uchiyama, F.Osaka, Y.Ikemi, I.Kobayashi, T.Eto, T.Kuno, H.Ito. Incidence of Childhood Injuries in Japan. 4th World Injury prevention and control conference (Amsterdam). 1998.5

5)T.Tanaka, H.Ishii.International Comparison of Accidental Deaths in Infants. 4th World Injury prevention and control conference(Amsterdam). 1998.5

6)M.Shimizu, M.Umeda, T.Tanaka. Yearly Changes of the Incidence of Childhood Injuries in Japan. 4th World Injury prevention and control conference (Amsterdam). 1998.5

7)斎藤麗子、小林祐子、田中哲郎、衛藤隆.家庭内事故予防への配慮. 第 45 回日本小児保健学会(東京)660-661. 平成 10 年 9 月.

8)石井博子、小林正子、加藤則子、田中哲郎. わが国における乳幼児事故の実態調査 -第 1 報全国病院における 14612 例の分析結果-. 第 45 回日本小児保健学会(東京)664-665. 平成 10 年 9 月.

9)小林正子、石井博子、加藤則子、田中哲郎. わが国における乳幼児事故の実態

調査 -第 2 報年齢からみた事故内容-. 第 45 回日本小児保健学会(東京)666-667. 平成 10 年 9 月.

10)石井博子、田中哲郎. 不慮の事故の国際比較. 第 54 回日本公衆衛生学会(岐阜市)45(10):748. 平成 10 年 10 月.

11)小林正子、石井博子、向井田紀子、加藤則子、田中哲郎. 発達段階から見た乳幼児事故. 第 54 回日本公衆衛生学会(岐阜市)45(10):507. 平成 10 年 10 月.

12)田中哲郎、加藤則子、佐藤加代子、井原成男、尾崎米厚、浅井雅之、中村富枝. 乳幼児の家庭内事故予防に関する調査 -「子ども事故予防センター」の活動効果について-. 第 54 回日本公衆衛生学会(岐阜市),45(10):508. 平成 10 年 10 月.

図1 重症度別氷山図

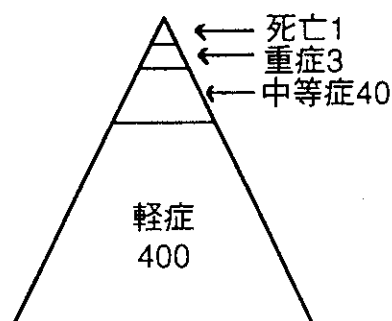


図2 処置別氷山図

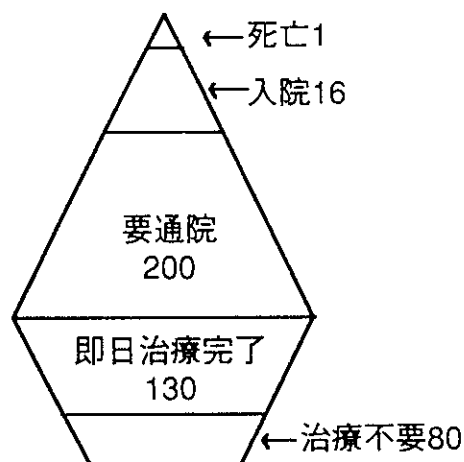


表1 年齢・性別事故発生数

年齢	事故発生数	男	女	全体に占める 男の割合(%)*
0歳	2,669	1,478	1,154	56.2
(0~5ヵ月)	1,307	735	545	57.4
(6~11ヵ月)	1,362	743	609	55.0
1歳	3,440	1,971	1,453	57.6
(12~17ヵ月)	2,104	1,198	899	57.1
(18~23ヵ月)	1,336	773	554	58.3
2歳	2,778	1,587	1,176	57.4
3歳	2,183	1,280	893	58.9
4歳	1,612	971	628	60.7
5歳	1,326	828	491	62.8
6歳	604	366	236	60.8

*無回答を除く割合

表2 年齢別事故内容

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体数	転倒 3,933 (28.7)	転落 2,666 (19.5)	衝突 2,251 (16.4)	熱傷 1,232 (9.0)	異物誤飲 1,187 (8.7)
0歳	異物誤飲 579 (22.9)	転落 480 (19.0)	転倒 441 (17.5)	熱傷 384 (15.2)	衝突 268 (10.6)
1歳	転倒 917 (28.5)	転落 719 (22.3)	衝突 502 (15.6)	熱傷 390 (12.1)	異物誤飲 328 (10.2)
2歳	転倒 772 (29.9)	転落 521 (20.2)	衝突 418 (16.2)	熱傷 201 (7.8)	はさむ 162 (6.3)
3歳	転倒 662 (32.6)	衝突 382 (18.8)	転落 375 (18.5)	はさむ 129 (6.4)	交通事故 125 (6.2)
4歳	転倒 513 (33.8)	衝突 318 (20.9)	転落 275 (18.1)	交通事故 110 (7.2)	はさむ 105 (6.9)
5歳	転倒 427 (33.9)	衝突 250 (19.9)	転落 212 (16.9)	交通事故 115 (9.1)	はさむ 85 (6.8)

表3 事故内容よりみた各事故の特徴

		件数	(%)	最 多 年 齢	(%)	性 別 男 の 件 数	(%)※	救急車に よる搬送	(%)	入 院 患 者 数	(%)	平均入院 期間(日)	重 症 患 者 数	(%)※	死 亡 者 数	(%)	後 遺 症	(%)
1	窒息	39	(0.3)	0歳	(30.8)	22	(56.4)	18	(52.9)	9	(23.1)	6.6	5	(13.2)	6	(15.8)	5	(18.5)
2	溺水	47	(0.3)	1歳	(36.2)	29	(61.7)	35	(79.5)	22	(46.8)	4.3	6	(12.8)	14	(29.8)	6	(18.8)
3	誤飲	1,187	(8.1)	0歳	(48.8)	646	(54.7)	106	(9.6)	112	(10.0)	2.3	4	(0.3)	-	(-)	23	(2.3)
4	熱傷	1,232	(8.4)	1歳	(31.7)	659	(54.0)	70	(6.3)	56	(4.6)	14.3	13	(1.1)	-	(-)	120	(11.1)
5	転落	2,666	(18.2)	1歳	(27.0)	1,549	(58.3)	168	(6.9)	114	(4.4)	6.1	28	(1.1)	1	(0.0)	59	(2.5)
6	転倒	3,933	(26.9)	1歳	(23.3)	2,440	(62.6)	184	(5.2)	76	(2.0)	8.2	12	(0.3)	-	(-)	69	(1.9)
7	衝突	2,251	(15.4)	1歳	(22.3)	1,424	(63.8)	107	(5.3)	32	(1.5)	9.5	4	(0.2)	-	(-)	50	(2.4)
8	はさむ事故	781	(5.3)	1歳	(21.4)	452	(58.5)	34	(4.8)	17	(2.2)	8.3	2	(0.3)	-	(-)	22	(3.1)
9	交通事故	758	(5.2)	2歳	(16.1)	458	(58.5)	279	(38.5)	69	(9.0)	13.0	20	(2.6)	9	(1.2)	29	(4.1)
	全 体	14,612	(100.0)	1歳	(23.5)	8,481	(58.0)	1,015	(7.7)	525	(3.7)	7.5	98	(0.7)	33	(0.2)	399	(3.1)

※ 全体に対する割合

表4 場所別事故発生件数

年 齢	台 所		浴 室		階 段		玄 関		居 間		子 ど も の 部 屋	
	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)
0歳	184	(23.8)	40	(13.2)	96	(13.0)	54	(17.5)	1,234	(24.8)	107	(18.4)
1歳	255	(33.0)	86	(28.4)	267	(36.1)	91	(29.4)	1,407	(28.3)	95	(16.3)
2歳	150	(19.4)	58	(19.1)	157	(21.2)	53	(17.2)	972	(19.5)	129	(22.2)
3歳	89	(11.5)	52	(17.2)	112	(15.1)	58	(18.8)	675	(13.6)	97	(16.7)
4歳	53	(6.9)	47	(15.5)	61	(8.2)	36	(11.7)	412	(8.3)	84	(14.4)
5歳	41	(5.3)	20	(6.6)	47	(6.4)	17	(5.5)	280	(5.6)	70	(12.0)
無回答を除く 0~5歳の総数	772	(100.0)	303	(100.0)	740	(100.0)	309	(100.0)	4,980	(100.0)	582	(100.0)

表5 家庭内事故発生時刻

時 刻	台 所		浴 室		階 段		玄 関		居 間		子どもの部屋		ベランダ	
	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)
午前														
0~2時前	1	(0.1)	1	(0.4)	6	(0.9)	1	(0.4)	49	(1.1)	12	(2.2)	0	(0.0)
2~4	3	(0.4)	1	(0.4)	4	(0.6)	0	(0.0)	11	(0.2)	2	(0.4)	0	(0.0)
4~6	4	(0.6)	1	(0.4)	2	(0.3)	0	(0.0)	12	(0.3)	6	(1.1)	0	(0.0)
6~8	13	(1.8)	2	(0.7)	18	(2.6)	4	(1.4)	73	(1.6)	10	(1.8)	0	(0.0)
8~10	40	(5.7)	8	(2.9)	56	(8.2)	19	(6.7)	284	(6.2)	32	(5.9)	9	(14.5)
10~12	55	(7.8)	9	(3.2)	92	(13.5)	39	(13.8)	471	(10.3)	41	(7.5)	11	(17.7)
午後														
12~2時	101	(14.4)	8	(2.9)	75	(11.0)	46	(16.3)	402	(8.8)	53	(9.7)	9	(14.5)
2~4	63	(9.0)	9	(3.2)	107	(15.7)	48	(17.0)	477	(10.5)	63	(11.6)	15	(24.2)
4~6	75	(10.7)	24	(8.6)	89	(13.1)	47	(16.7)	561	(12.3)	86	(15.8)	9	(14.5)
6~8	206	(29.3)	61	(21.8)	95	(14.0)	37	(13.1)	930	(20.4)	91	(16.7)	5	(8.1)
8~10	114	(16.2)	117	(41.8)	89	(13.1)	29	(10.3)	952	(20.9)	105	(19.3)	2	(3.2)
10~12	28	(4.0)	39	(13.9)	47	(6.9)	12	(4.3)	340	(7.5)	44	(8.1)	2	(3.2)
無回答を除く 総数	703	(100.0)	280	(100.0)	680	(100.0)	282	(100.0)	4,562	(100.0)	545	(100.0)	62	(100.0)

表6 家庭内事故の場所別の重症度、入院、後遺症の有無

年 齢	台 所		浴 室		階 段		玄 関		居 間		子どもの部屋		ベランダ	
	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)	発生件数	構成割合 (%)
総事故件数	787		309		755		317		5,093		614		65	
軽 傷	651	(85.4)	261	(89.1)	693	(94.7)	272	(90.1)	4,427	(90.8)	535	(90.1)	58	(89.2)
中等症	107	(14.0)	21	(7.2)	38	(5.2)	29	(9.6)	418	(8.6)	48	(8.1)	5	(7.7)
重 傷	4	(0.5)	7	(2.4)	1	(0.1)	1	(0.3)	26	(0.5)	7	(1.2)	2	(3.1)
死 亡	0	(0.0)	4	(1.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(0.0)	4	(0.7)	0	(0.0)
有効回答数	762	(100.0)	293	(100.0)	732	(100.0)	302	(100.0)	4,873	(100.0)	594	(100.0)	65	(100.0)
入 院	35	(4.5)	24	(8.0)	15	(2.0)	5	(1.6)	188	(3.8)	22	(3.7)	5	(7.8)
有効回答数	770	(100.0)	301	(100.0)	745	(100.0)	311	(100.0)	4,965	(100.0)	596	(100.0)	64	(100.0)
後遺症あり	39	(5.5)	15	(5.5)	15	(2.2)	4	(1.4)	154	(3.3)	19	(3.4)	1	(1.8)
有効回答数	707	(100.0)	271	(100.0)	687	(100.0)	281	(100.0)	4,650	(100.0)	564	(100.0)	57	(100.0)

表7 場所別の事故内容

台 所			浴 室			階 段			玄 関		
	発生件数	構成割合 (%)		発生件数	構成割合 (%)		発生件数	構成割合 (%)		発生件数	構成割合 (%)
1.やけど	311	(41.6)	1.転倒	108	(36.2)	1.転落	645	(86.5)	1.転倒	137	(44.9)
2.転倒	102	(13.6)	2.衝突	66	(22.1)	2.転倒	165	(22.1)	2.はさむ事故	74	(24.3)
3.転落	90	(12.0)	3.熱傷	53	(17.8)	3.衝突	48	(6.4)	3.衝突	58	(19.0)
4.誤飲	76	(10.2)	4.溺水	31	(10.4)	4.はさむ事故	1	(0.1)	4.転落	55	(18.0)
5.衝突	74	(9.9)	5.転落	25	(8.4)	5.その他	11	(1.5)	無回答を除く総数	305	(100.0)
6.はさむ事故	14	(1.9)	6.はさむ事故	15	(5.0)	無回答を除く総数	746	(100.0)			
無回答を除く総数	748	(100.0)	7.誤飲	7	(2.3)						
			無回答を除く総数	298	(100.0)						

居 間			ベランダ		
	発生件数	構成割合 (%)		発生件数	構成割合 (%)
1.転倒	1,275	(26.3)	1.転落	24	(39.3)
2.衝突	945	(19.5)	2.転倒	23	(37.7)
3.誤飲	850	(17.6)	3.衝突	12	(19.7)
4.熱傷	672	(13.9)	4.はさむ事故	7	(11.5)
5.転落	487	(10.1)	5.誤飲	2	(3.3)
6.はさむ事故	171	(3.5)	無回答を除く総数	61	(100.0)
7.窒息	24	(0.5)			
無回答を除く総数	4,839	(100.0)			

表8 死亡事故の事故内容

事故内容	発生件数	構成割合 (%)	主な事故内容
1. 溺水	14	42.4	浴槽4件、川・海4件、池・湖2件など
2. 交通事故	9	27.3	自動車に乗っていて4件、自転車に乗っていて1件、走っていて1件など
3. 窒息	6	18.2	ふとん・枕3件、吐乳2件など
4. 転落	1	3.0	
総 数	33	100.0	

表9 重症事故の事故内容

事故内容	発生件数	構成割合 (%)	主な事故内容
1. 転落	28	28.6	ベランダ1件、ブランコ1件、ベビーベッド・椅子2件など
2. 交通事故	20	20.4	歩いている5件、自動車に乗っていて4件、走っていて3件など
3. 熱傷	13	13.3	ふとん・枕3件、吐乳2件など
4. 転倒	12	12.2	ポット6件、ストーブ2件、食卓上の湯1件など
5. 溺水	6	6.1	浴槽4件、トイレ1件、池・湖1件など
6. 窒息	5	5.1	ピーナッツ2件、吐乳1件など
総 数	98	100.0	

表10 後遺症のみられた事故の事故内容

事故内容	発生件数	構成割合 (%)	主な事故内容
1. 熱傷	120	31.6	食卓上の湯33件、ポット23件、ストーブ21件、電気器具7件、炊飯器4件など
2. 転倒	69	18.2	つまずいて32件、走っていて11件、滑って10件など
3. 転落	59	15.5	階段14件、椅子6件、ブランコ4件、ベビーベッド3件など
4. 衝突	50	13.2	机11件、タンス5件、壁5件、他の人と2件など
5. 交通事故	29	7.6	自動車に乗っていて12件、自転車に乗っていて9件、走っていて2件など
6. 誤飲	23	6.1	薬品8件、タバコ7件、ボタンなど1件など
7. はさむ事故	22	5.8	家のドア7件、乗り物のドア2件など
8. 溺水	6	1.6	浴槽4件、トイレ1件など
9. 窒息	5	1.3	ピーナッツ1件など
総 数	380 ※	100.0	

※無回答を除く

小児の事故とその防止に関する研究

健診用事故防止プログラムの作成

主任研究者 田中 哲郎 国立公衆衛生院母子保健学部長
研究協力者 石井 博子 国立公衆衛生院母子保健学部

研究要旨：昨年度、乳幼児の事故調査を実施し、14612例の症例を得ることができた。

これらの資料を分析し、健診用事故防止プログラムの作成を行った。

チェックリストは主な健診月齢に合わせた1ヵ月健診用、3～4ヵ月健診用、6ヵ月健診用、9ヵ月健診用、1歳健診用、1歳6ヵ月健診用、3歳健診用の7つとし、また、それぞれの指導ポイントを明らかにし、事故防止の指導が容易にできるようにした。

それぞれのチェック項目がその対象月齢・年齢で発生した事故に占める割合を示し、より科学的で効果の上がるものになるように留意した。

同時に場所別の安全チェックリストについて、家庭内では台所、浴室、階段、玄関、居間・子ども部屋、ベランダの6ヶ所、家庭外では公園の合計7ヶ所について作成した。

A) 研究目的

子どもの事故防止指導法として、健康診査の機会を利用することが考えられて、数年前の厚生省研究班により、試案が発表され、すでに一部では利用され、その効果についても検討が行われ、有効との報告もなされている。

昨年度、全国で乳幼児の事故調査を実施し14,612例の症例を得ることができたので、これらを詳細に分析し、より科学的で効果的な安全チェックリストとその指導ポイントをまとめた。また、新しく場所別の安全チェックリストの作成を試みた。

B) 研究方法

昨年度、厚生省心身障害研究「乳幼児死亡の防止に関する研究班」で得られた14,612例の症例について、年齢別、場所別に分類し、新しい健診用の安全チェックリストを作成した。

C) 結果

1) 健診用安全チェックリスト

安全チェックリストは、主な健診月・年齢にあわせて1ヵ月健診用(対象0から4ヵ月まで)、3～4ヵ月健診用(対象3から6ヵ月まで)、6ヵ月健診用(対象6から9ヵ月まで)、9ヵ月健診用(対象9から12ヵ月まで)、1歳健診用(対象1歳から1歳6ヵ月まで)、1歳6ヵ月健診用(対象1歳6ヵ月から3歳まで)、3歳健診用

(対象3歳から5歳まで)の7つの安全チェックリストを作成した。

安全チェックリストは各項目に対して、「はい」「いいえ」となるように質問し、保護者に当てはまる所に印をつけてもらい、保護者の事故に対する気配りが十分でない項目を医師や保健婦などにより指導するものである。

本チェックリストは保護者の気配りが不足していると思われる項目は、右側に印がつくように工夫されており、短時間にどの項目を指導すべきかがわかるようにしてある。

また、各項目がどのような内容の事故で、対象月齢・年齢で発生した事故に対して何%を占めているかについても記載した。

2) 各健診用チェックリストに対応する指導ポイントおよびパンフレットの作成

各健診用のチェックリストに対応した指導ポイントおよびパンフレットの作成を行った。

各パンフレットはその月齢や年齢に多い事故を中心に4～5項目程度の事故を指導する内容とした。

3) 場所別安全チェックリストの作成

子どもの事故がおこりやすい場所について、安全チェックリストを作成した。

チェックリストは、家庭内では台所、浴室、階段、玄関、居間・子供部屋、(熱傷、転倒、

誤飲、転落)、ベランダの6ヶ所、家庭外では公園の合計7ヶ所とした。

E) 考察

チェックリストは米国小児科学会でも採用されており、保護者に子どもの事故防止を指導する方法の一つと考えられる。

特にわが国においては、健康診査の受診率が高いことより、この機会に保護者に対し子どもの事故防止について指導することは有効と思われる。

この健診を利用した事故防止の指導効果については、和歌山県の御坊保健所において少数例ではあるが検討され、効果があるとされている。

前回のチェックリストは、この月齢に多いと思われる項目について作成したが、今回は全国

調査の結果に基づいて科学的にその時期に多い事故を明らかにし作成したことより、より効果的な安全チェックリストが作成できたと思われる。また、その指導ポイントを明らかにし、誰でも容易に指導できるようにした。

場所別の安全チェックリストはわが国でははじめてであり、全国調査結果を場所別に分析して必要性の高いものをリストにあげた。

F) 結論

14,612例の事故を分析し、新しく各健診に使用可能な安全チェックリスト及び指導ポイントをまとめた。また、場所別のチェックリストを作成し、保健婦など必ずしも事故専門以外の誰にでも指導できるプログラムとした。

1か月健診用安全チェックリスト(0~4か月児対応)

項目	いいえ	はい	事故全体に占める割合
1. 赤ちゃんを家に一人置いて出かけることや、車の中に一人で乗せておくことがありますか。	いいえ	はい	基本
2. 赤ちゃんを抱いている時、自分の足元に注意していますか。	はい	いいえ	転倒 26.6%
3. 赤ちゃんを抱いている時、あわてて階段を降りることがありますか。	いいえ	はい	転落 21.1%
4. 赤ちゃんをクローハン(かご)に寝かせて持ち上げる時、両方の取っ手をしっかり握っていますか。	はい	いいえ (使用しない)	転落 21.1%
5. 赤ちゃんを抱いていて、つまづきやすい場所に、角のどがったテーブルや家具がありますか。	いいえ	はい	衝突 15.1%
6. 赤ちゃんのまわりにタバコや小物を置いていますか。	いいえ	はい	誤飲・異物の進入 11.2%
7. 赤ちゃんは暖房器具(ストーブ・こたつなど)の熱が直接ふれないように寝かせていますか。	はい	いいえ	やけど 9.6%
8. 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちてこないようにしてありますか。	はい	いいえ	外傷・打撲や脱臼 8.5%
9. 赤ちゃんを抱いて自動車に乗ることがありますか。	いいえ (車は使用しない)	はい	交通事故 6.2%
10. 赤ちゃんを抱いている時、ドアを勢いよく開めることがありますか。	いいえ	はい	はさむ 5.1%
11. 入浴中赤ちゃんから目を離すことがありますか。	いいえ	はい	溺水 0.4%
12. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ、顔を横向きにして寝かせていますか。	はい	いいえ	窒息 0.2%
13. 敷布団は硬めの物を使用していますか。	はい	いいえ	窒息 0.2%

3~4か月健診用安全チェックリスト(3~6か月児対応)

項目	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. ベビー用品は月齢や使用目的にあったものを選び、取り扱い説明書をよく読んでいますか。	はい	いいえ	基本
2. ベビーベッドの欄はいつも上げていますか。	はい	いいえ (使用しない)	転落 32.0%
3. テーブル、ソファ等の上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありますか。	いいえ	はい	転落 32.0%
4. 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲み物を食べたり飲んだり、料理したりすることがありますか。	いいえ	はい	やけど 15.1%
5. 赤ちゃんを抱いたり、おぶったりする時は、まわりにぶつかる危険な所がないか確認をしていますか。	はい	いいえ	衝突 10.8%
6. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ	誤飲 10.5%
7. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。	はい	いいえ (車は使用しない)	交通事故 10.5%
8. 赤ちゃんを抱いている時、自分の足元に注意していますか。	はい	いいえ	転倒 8.9%
9. 赤ちゃんの腕を、お兄ちゃんやお姉ちゃんが強く引っ張ることがありますか。	いいえ	はい	外傷・打撲や脱臼 8.6%
10. 赤ちゃんの指がドアに触れていないのを確認してから、開閉を行っていますか。	はい	いいえ	はさむ 2.8%
11. ベビーベッドの欄とマットレスの間にすき間がありますか。	いいえ	はい (使用しない)	窒息 0.9%

6か月健診用安全チェックリスト（0～9か月児対応）

項目	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ	誤飲・異物の進入 34.5%
2. ストーブやヒーターなどは安全柵で囲って使用していますか。	はい	いいえ	やけど 20.0%
3. ポットや炊飯器は赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ	やけど 20.0%
4. お茶やコーヒー、味噌汁、カップラーメン等をテーブルの端に置くことがありますか。	いいえ	はい	やけど 20.0%
5. 階段に転落防止用の柵を取り付けましたか。	はい	いいえ（階段なし）	転落 17.4%
6. 歩行器は段差がない所で使用していますか。	はい	いいえ（使用しない）	転落 17.4%
7. つかまり立ちをさせる時は赤ちゃんの側についていますか。	はい	いいえ	転倒 10.4%
8. 赤ちゃんがおすわりをするそばに、角や縁のするどいものがありますか。	いいえ	はい	衝突 7.2%
9. おもちゃは安全マークを目安に選び、プラスチックの薄い突起や、とがった部分がないか確認していますか。	はい	いいえ	外傷・打撲や脱臼 4.2%
10. ドアのちょうつがい部分に、指が入らないようにガードをしていますか。	はい	いいえ	はさむ 2.7%
11. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。（車は使用しない）	はい	いいえ	交通事故 2.6%
12. よだれかけのひもは外してから赤ちゃんを寝かせていますか。	はい	いいえ	窒息 0.6%
13. 入浴中の赤ちゃんを一人にして目を離すことがありますか。	いいえ	はい	溺水 0.2%

1歳健診用安全チェックリスト（1～1.6歳児対応）

項目	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. 子どもが敷居や段差のあるところを歩く時は、つまずかないように注意していますか。	はい	いいえ	転倒 25.5%
2. 階段や玄関などの段差のあるところに子どもが一人で行くことがありますか。	いいえ	はい	転落 21.5%
3. 家具などの角のするどい部分には、クッション等のガードがしてありますか。	はい	いいえ	衝突 14.5%
4. 熱い鍋やアイロンや子どもの手の届かないところに置いていますか。	はい	いいえ	やけど 12.3%
5. タバコが入っているパックを子どものそばに置くことがありますか。	いいえ	はい	誤飲・異物の進入 11.7%
6. かみそり、包丁、はさみ等の刃物は使用したら必ず片付けていますか。	はい	いいえ	外傷・打撲や脱臼 5.5%
7. ドアを開閉する時、子どもの手や足の位置を確認していますか。	はい	いいえ	はさむ 4.8%
8. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。（車は使用しない）	はい	いいえ	交通事故 3.2%
9. 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。	はい	いいえ	溺水 0.5%
10. 子どもが一人で浴室に入れないようにドアには鍵をつけていますか。	はい	いいえ	溺水 0.5%
11. ビニール袋やラップは子どもの手の届かない所に片づけていますか。	はい	いいえ	窒息 0.5%

9か月健診用安全チェックリスト（9～12か月児対応）

項目	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ	誤飲・異物の進入 21.6%
2. ボタン型電池や硬貨、ピアスなどの小物を机の上に置いていますか。	いいえ	はい	誤飲・異物の進入 21.6%
3. 赤ちゃんがつかまり立ちをしたり、つたい歩きをする時は、そばについて見えていますか。	はい	いいえ	転倒 19.5%
4. 階段の上下階の両側に転落防止用の柵を取り付けていますか。	はい	いいえ（階段なし）	転落 18.9%
5. 子ども用の椅子は安定の良いものを使用していますか。	はい	いいえ	転落 18.9%
6. ストーブやヒーターなどは安全柵で囲って使用していますか。	はい	いいえ	やけど 14.9%
7. テーブルクロスを使用していますか。	いいえ	はい	やけど 14.9%
8. 家具などの角のするどい部分には、クッション等のガードがしてありますか。	はい	いいえ	衝突 12.3%
9. テーブルや机の上にある食器やビン・缶などは、赤ちゃんが自由に触れないようにしてありますか。	はい	いいえ	外傷・打撲や脱臼 5.1%
10. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープは、赤ちゃんが手や指を入らないようにしてありますか。	はい	いいえ	はさむ 4.1%
11. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。（車は使用しない）	はい	いいえ	交通事故 3.0%
12. バケツや洗面器に水をためておくことがありますか。	いいえ	はい	溺水 0.4%
13. ビーナッツやあめ玉などは赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ	窒息 0.2%

1.6歳健診用安全チェックリスト（1.6～3歳児対応）

項目	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. 子どもが遊んでいるまわりに、つまずきやすい物や段差がないか注意していますか。	はい	いいえ	転倒 29.3%
2. 階段を上り下りする時は、大人がいつも子どもの下側を歩くか、手をつないでいますか。	はい	いいえ	転落 19.4%
3. 子どもの位置を確認してからドアを開けていますか。	はい	いいえ	衝突 16.5%
4. ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて、走り回ることがありますか。	いいえ	はい	外傷・打撲や脱臼 9.2%
5. 子どもの腕を強く引っ張ることがありますか。	いいえ	はい	外傷・打撲や脱臼 9.2%
6. ストーブやヒーターなどは安全柵で囲い、子どもが熱いものに触れないようにしていますか。	はい	いいえ	やけど 8.2%
7. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ	誤飲・異物の進入 6.9%
8. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。	いいえ	はい	誤飲・異物の進入 6.9%
9. 子どもが引き出しやドアを開け閉めして遊んでいることがありますか。	いいえ	はい	はさむ 5.2%
10. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。（車は使用しない）	はい	いいえ	交通事故 4.4%
11. ビーナッツやあめ玉などは子どもの手の届かないところに置いていますか。	はい	いいえ	窒息 0.3%
12. 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。	はい	いいえ	溺水 0.2%
13. 子どもが浴室のドアを開けて一人で中に入ることがありますか。	いいえ	はい	溺水 0.2%

3歳健診時用安全チェックリスト（3～5歳児対応）

項目	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. 子どもが外遊びをする時、つまずきやすい物や段差がないか注意していますか。	はい	いいえ	転倒 31.7 %
2. 浴室の床やタイルは滑りにくいですか。	はい	いいえ	転倒 31.7 %
3. いつも子どものいる位置を確認していますか。	はい	いいえ	衝突 19.7 %
4. すべり台やブランコの安全な乗り方を教えていますか。	はい	いいえ	転落 17.6 %
5. ベランダや窓のそばに踏み台になるものがありますか。	いいえ	はい	転落 17.6 %
6. おもちゃで遊んでいる時、危険なことをしていないか確認をしていますか。	はい	いいえ	外傷・打撲 や脱臼 8.2 %
7. 車のドアを開ける時、子どもの指をはさまないか確認をしていますか。	はい	いいえ	はさむ 6.6 %
8. 自動車に乗る時は必ずチャイルドシートを使用していますか。	はい	いいえ (車は使用しない)	交通事故 6.4 %
9. 子どもに交通ルールを教えていますか。	はい	いいえ (車は使用しない)	交通事故 6.4 %
10. ストーブやヒーターなどは安全策で囲い、子どもが熱いものに触れないようにしていますか。	はい	いいえ	やけど 4.8 %
11. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ	誤飲・異物の の進入 4.5 %
12. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。	いいえ	はい	誤飲・異物の の進入 4.5 %
13. 子どもだけで川や池に遊びに行くことがありますか。	いいえ	はい	溺水 0.3 %
14. 水遊びをする時は必ず大人が付き添っていますか。	はい	いいえ	溺水 0.3 %
15. あめ・こんにやくゼリー・おもちゃをあげるとき、のどに詰まらせないように注意していますか。	はい	いいえ	窒息 0.2 %

1カ月児健診用安全チェックリストの指導のポイント

1. 赤ちゃんを家に一人置いて出かけることや、車の中に一人で乗せておくことがありますか。 基本

赤ちゃんが寝ている少しの間に、赤ちゃんだけを家に置いて買い物などに出かける人がみられます。出かける時は寝ていても途中で起きてしまったり、寝返りやハイハイができるようになれば、家の中を動き回るのでいろいろな危険が待ち受けています。また、火災や地震など災害の際にも一人では脱出できません。赤ちゃんは自分自身で身の安全を守ることができないので、大人が常に心がける必要があります。

また、夏に赤ちゃんを自動車の中に置いたままにしていると、脱水を起こし、時には死亡事故につながる場合があります。車内は日中短時間でも温度が驚くほど上昇し、40～50度になります。

<指導のポイント>

赤ちゃんを家に一人残して外出しない。車から降りる時は必ず赤ちゃんも一緒に降ろす。

2. 赤ちゃんを抱いている時、自分の足元に注意していますか。 転倒

今まで簡単に通っていた所でも、赤ちゃんを抱いている時は足元が見にくいので、床が滑りやすかったり、カーベットのめくれかけたり、ちよつとした段差にもつまずいてしまいます。赤ちゃんを抱いたまま転倒すると、体で押しつぶしてしまったり、テーブルや家具にぶつけてしまうので注意が必要です。

<指導のポイント>

赤ちゃんを抱いている時は、自分の足元に注意をして行動する。

3. 赤ちゃんを抱いている時、あわてで階段を降りることがありますか。 転落

赤ちゃんを抱いている時は足元が見にくいので、階段を降りる時踏み外してしまったり、靴下やスリッパを履いていて、滑って赤ちゃんを落としてしまう事故があります。階段などの高い場所からの転落は、重症事故になりやすいので注意が特に必要です。

階段のカーベットは毛足の短いものを使用し、市販のすべり止めを貼るのも手軽な安全対策です。ただし、極端に出っ張ると逆につまずく原因になってしまうので、種類や取り付けには十分注意を払うこと。

<指導のポイント>

赤ちゃんを抱いている時は、階段の上り下りを慎重に行う。階段の照明は明るくして、物を置かないようにする。滑りやすい階段の縁に

は滑り止めに貼る。

4. 赤ちゃんをクローハン(かご)に寝かせて持ち上げる時、両方の取っ手をしっかりと握っていますか。 転落

クローハンの扱いに慣れてくると、取っ手を片方しか持っていないのに気づかず持ち上げて、赤ちゃんを落してしまったり、持ち運んでいる時取っ手が取れて寝ている赤ちゃんが転落してしまう事故があります。

<指導のポイント>

赤ちゃんをクローハン(かご)に寝かせて持ち上げる時、必ず両方の取っ手を握っているのを確認する。

5. 赤ちゃんを抱いていて、つまずきやすい場所に、角のどがったテーブルや家具がありますか。 衝突

ベビーベッドに寝かせようとした時、のけぞってベッドの欄にぶつかってしまったり、ミルクをあげようとして抱きかかえた時、急に頭を後ろ屈してテーブルにぶつかったり、赤ちゃんはじっとしていません。

赤ちゃんを抱きながらつまずくと、つまずいた勢いで赤ちゃんが角のどがっているテーブルや家具にぶつかると危険です。

<指導のポイント>

角のするどい家具やテーブルはクッション等でカバーする。

6. 赤ちゃんのまわりにタバコや小物を置いてありますか。 誤飲・異物の進入

おもちゃの部品が外れて入ったり、お兄ちゃんお姉ちゃんが赤ちゃんの口にタバコを入れてしまったり、石鹸をなめてみたりと赤ちゃんはなんでも口に入れたがりますが、赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込んでしまいます。

<指導のポイント>

部屋の中の小物を整理整頓しておく。タバコや灰皿は赤ちゃんの手の届かないところに置く。自宅だけでなく、実家やよその家に外出した時も注意する。

7. 赤ちゃんは暖房器具(ストーブ、こたつ)などの熱が直接触れないように寝かせていますか。 やけど

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。体温より少し高いくらいの温度でも、長時間あてたままにすると低温やけどをおこすことがあります。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重傷な熱傷になる危険があります。

<指導のポイント>

赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらないようにして寝かせる。こたつや電気カーペットに長時間寝かさない。

8. 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちてこないようになっていますか。 外傷・打撲や転倒

赤ちゃんの上に、テーブルの上の哺乳ビンが倒れてきたり、タンスの上の箱が落ちてきたり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいるおもちゃが落ちてきたり。上から落ちてきた物が赤ちゃんにあたり、外傷や打撲を負ってしまう事故があります。

<指導のポイント>

寝ている赤ちゃんの上には、物が落ちてこないようにする。

9. 赤ちゃんを抱いて自動車に乗ることがありますか。 交通事故

生まれたばかりの赤ちゃんでも、抱きかかえて自動車に乗せるのは危険です。抱いていても車が衝突したり、急に止まると、乳幼児は腕から飛び出し衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の力では支えきれません。

<指導のポイント>

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選ぶ。

10. 赤ちゃんを抱いている時、ドアを勢いよく閉めることがありますか。 はさむ

赤ちゃんの小さな指はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまいます。ドアのすき間に指が入っているのを知らずに勢いよく閉めてしまったり、開け放しておいたドアが強風で急に閉まって指がはさまれてしまう事故があります。

<指導のポイント>

ドアを開閉する時は、赤ちゃんの手の位置を確認する。ドアを開けておく時は、風などで急に閉まらないようにドアクローザー、ドアストッパーなどで固定する。

11. 入浴中の赤ちゃんから目を離すことがありますか。 溺水

オムツを取り替えたり、授乳をしたりでお母さんは睡眠不足です。赤ちゃんと一緒に風呂に入ってたた寝をしてしまい、赤ちゃんが湯船に沈んでしまったり、うつぶせにして体を洗っていたら、顔がお湯について溺れてしまうなどの事故が起きています。

<指導のポイント>

入浴中の赤ちゃんから目を離さない。入浴中の赤ちゃんを一人にして着替えを取りに行ったり、電話に出たりしない。

12. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ、顔を横向きにして寝かせていますか。 窒息

母乳やミルクを飲んだ後は、排気が十分でないと授乳をもどしてしまい、口の中に吐物が残っていると窒息事故につながります。吐いたものがのどや気管につまらないように、顔を横向きにして寝かせ、寝かせてから10分～15分位は気を付けて見ているようにします。

<指導のポイント>

母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ、顔を横向きにして寝かせる。口の中に吐物がないか確認をする。

13. 敷布団は硬めの物を使用していますか。 窒息

敷布団は柔らかすぎると赤ちゃんの顔が埋まってしまい、鼻や口がふさがれてしまいます。掛布団やタオルなどが顔に深くかかっているか、

寝ている間でも時々様子を見るようにします。

<指導のポイント>

敷布団は硬めの物を使用し、うつぶせ寝にならないように気をつける。掛布団は顔に深くかけすぎない。顔の側にタオルやガーゼは置いておかない。

3～4カ月児健診用安全チェックリストの指導のポイント

1. ベビー用品は月齢や使用目的にあったものを選び、取り扱い説明書を良く読んでいますか。 基本

赤ちゃんが使うものはすべて安全の規格や基準にあっているとは限りません。Sマーク・SGマーク・STマーク等安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違っていたり、赤ちゃんの体に合っていないと事故は起ります。使い方の表示や注意書きは大切で、説明書を良く読み、構造や品質に問題はないかを確認して使用します。

<指導のポイント>

取扱説明書や使用上の注意を良く読み、きちんと守って使用する。ベビーベッド、子ども用の椅子、ベビーサークル、衣類等はザインだけではなく、安全性や耐久性にも目を配る。

2. ベビーベッドの柵はいつも上げていますか。 転落

まだ動けないから大丈夫と思って、ベッドの柵を下げたままミルクを作りに行ったり、オムツを取り替えに行ったり赤ちゃんからちょっと目を離したすきに転落事故は起こっています。

<指導のポイント>

ベビーベッドに寝かせる時は、必ず柵を上げる。

3. テーブル、ソファなどの上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありますか。 転落

3カ月ぐらいの子どもでも頭のほうへずりあがったり、5カ月を過ぎると早い赤ちゃんは寝返りが打てるようになるので、テーブル・ソファなど段差のあるところに赤ちゃんを寝かせる時は、目を離すことができません。

<指導のポイント>

テーブル・ソファなどの高いところに寝かさな。子どもは動くものだとすることを忘れずに。

4. 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲みものを食べたり飲んだり、料理したりすることがありますか。 やけど

3～5カ月にかけて赤ちゃんはこぶしをふるったり、物をつかんだりできるようになります。大人の持っている熱い食べ物、飲み物にも手を伸ばそうとするので、片手で赤ちゃんを抱きながら熱いものを扱うことは危険です。また、抱いている赤ちゃんが動いたり、動かなくても誤ってカップが手から滑り落ちたりしないとは限りません。赤ちゃんの皮膚は成人に比べて薄く、洋服の上からでも容易に深度の深いやけどになってしまいます。

<指導のポイント>

赤ちゃんを抱きながら、熱い物を食べたり飲んだり運んだりしない。

5. 赤ちゃんを抱いたりおぶったりする時は、まわりにはぶつかると危ないところがないか確認をしていますか。 衝突

赤ちゃんをおぶって車に乗り込む時、頭を入り口におつけてしまったり、抱っこして立ち上がろうとして机におつけてしまう事故が、赤ちゃんばかり気にかけていて周りを見ないで行動したに起こっています。

<指導のポイント>

赤ちゃんを抱いたりおぶったりする時は、まわりにはぶつかると危ないところがないか、安全を確認してから行動する。

角のするどい家具やテーブルはクッション等でカバーする。

6. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。 熱飲・異物の侵入

腹はいになり、好きなおもちゃをつかんで遊べるようになった赤ちゃん。手を口を持っていき、なんでも口の中に入れようとします。タバコは2センチ以上飲み込むと、時に命にかかわるといわれます。口に入れると危険なタバコが赤ちゃんの手に届く場所がないか、いつも気をつけておく必要があります。

<指導のポイント>

タバコや灰皿は手の届かないところに置く。ジュースの缶を灰皿がわりにしない。

7. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。 交通事故

赤ちゃんを抱っこして車に乗るのは危険です。車が衝突すると腕から飛び出し、顔や頭をシートやダッシュボードにおつけて、事故の衝撃をまともに受けてしまいます。また、エアバックつきの車の助手席にチャイルドシートを取り付けるのは、衝突によってエアバックが作動すると押しつぶされるので危険です。

<指導のポイント>

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

8. 赤ちゃんを抱いている時、自分の足元に注意していますか。 転倒

今まで簡単に通っていた所でも、赤ちゃんを抱いている時は足元が見にくいので、床が滑りやすかったり、カーペットがめくれていたり、ちょっとした段差にもつまずいてしまいます。赤ちゃんを抱いたまま転倒すると、体で押しつぶしてしまったり、テーブルや家具におつけてしまうので注意が必要です。